

第6回（1990年）東方学術賞

中村学院長挨拶

主催者を代表致しまして、一言御挨拶申し上げます。

このたびインド大使館の御協力を得まして、共同でここに第六回東方学術賞の贈呈式を開くことができますことは、われわれの最も光栄とするところであります。本日は朝野各方面から、御多忙の中を御繰り合わせ、わざわざこの会場まで御来駕御臨席たまわりましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。

財団法人東方研究会は「東洋思想の研究及びその成果の普及」ということを目的としている研究会でありまして、1970年11月12日付けを以て財団法人の設立許可を受けましたが、すでに20周年に相当致します。その間、諸般の活動を続けて参りました。まことに微々たる団体ではありますが、全国にわたる各方面の同志・篤志家の御協力によりまして、次第に発展して参りました。

そしてさらに斯学の発展を計るために真に学問的意義があり、世の人々を益々恒久的な業績を遂行したいとかねがね念願しておりましたが、その一環として、インド大使館と共同主催にて、『東方学術賞』ならびに『東方文化賞』を設けて、学者ならびに文化活動家のすぐれた業績を世にひろく顕彰することに努めて参りました。そして本年度もインド大使館と共同主催にて、この領域における秀れた業績を世に広く顕彰することに致しました。

それにつきましては、インド大使館アルジュン・アスラニ大使はじめ、館員の方々のところからなる御協賛を得まして、順調に進めることができました。よって先般来諸方面より多数の識者の御意見を徴し、さらに選考委員会を設けて慎重に審議を続けて参りました。選考委員は奥田清明殿・川崎信定殿・勝又俊教殿・奈良康明殿・前田専学殿・水野弘元殿・山口恵照殿・山口瑞鳳殿と小生と計八人に御依頼申し上げます。その結果次の方々の業績をたたえることに致し、本日このように顕彰式を開催することとなりました。

これより第6回東方学術賞の受賞者の方々のお一人お一人の功績の顕彰に移ります。先ず特別顕彰を受けられます玉城康四郎博士は多年にわたって東京大学教授、さらに、東北大学教授・日本大学教授を歴任され、多くの俊秀の学徒を育成されましたが、今なお壯者を凌ぐ英気をもって学術研究と強化指導に当たっておられます。

多年にわたる研究の御業績は非常に数多く一々列挙できないほどであります。仏教の思想がアジア諸国、特にインド・中国・朝鮮・日本にどのようにひろがり、影響を及ぼし、また評価をうけたか、その意義を開明されました。特に、その著書『近代インド思想の形成』（東京大学出版会・1965年）という大冊においては、ラーマクリシュナ・ヴィブエーカナダ・タゴール・ラマナなどの思想を開明されたということは大きな先駆者的意義をもっています。

比較思想においても開拓者の一人であり、『比較思想論究』（講談社・1985年）の他多数論著があり、世の学徒が常に耳を傾けているものであり、その業績はひろく学界の敬慕を受けておられます。

半世紀以上にわたる学問上の、また教化上の御活動に深く敬意を表し、ここに貴台の御

功績に対し、失礼ではありますが、『東方学術特別顕彰』をもっておむくい致したいと存じます。

本多恵氏は、インド哲学が専攻ですが、多数の論著を公刊されました。ヨーガの方面ではヴヤーサのヨーガスートラバースヤならびに を邦訳され、サーンキヤの方面では『金七十論』を対照訳注し、またサーンクヤスートラに対するア Nil d a h およびヴィジュニャービクシュの両注釈を対照研究され、それに基づいて緻密な研究をまとめられました。ヴァイシェシカの方面ではプラシャスターパダのパダールタダルマサングラハを訳出しておられます。また『十地経』の英訳を、lokes h Ch a n d r a 博士監修のシャタピタカシリーズに発表しておられます。本多氏の学問成果の意義を高く評価し、財団法人東方研究会はここに『東方学術賞』をお贈りしたいと存じます。

つぎに仏教資料年代測定グループの画期的な研究成果を御紹介したいと思います。

従来人文科学の方面の学者と自然科学の方面の学者とが協力するという事は殆どなされませんでした。ところがこのたびは、めざましい研究成果を挙げられたました。日蓮の弟子であった高僧の一人に日持上人という人がおりました。この人は、伝説によると、津軽地方から北海道に入り、間宮海峡を渡って、アジア大陸に法華経の教えを伝えたという伝説があります。日本の内部ではその足跡がある程度確かめられていますが、アジア大陸での消息が解りませんでした。ところが戦後になり、中国北部の蒙古との境にある宜化という町の塔の中から日持上人の遺品と伝えられるものが発見されました。これを三友量順博士が研究されまして、日本人のもたらしたものであることを解明されました。さらに日本の自然科学者 8 名の方々がその遺品の一部を厳密に科学的測定されまして、ほぼ今から 700 年以前のものであるという結論をだされました。これは大発見であります。

この共同研究グループ形成の原動力となった三文量順博士は、立正大学短期大学の教授ですが、デリー大学で学位を得られ法華経のサンスクリット文写本についての研究成果が多数あります。

この共同研究に参加されました自然科学者は

川添良幸博士（東北大学金属材料研究所教授）

大橋英雄博士（東京大学宇宙線研究所助手）

小林紘一博士（東京大学原子力研究所総合センター助手）

そして、

吉田邦夫博士（東京大学理学部客員研究員）

佐藤奈穂子（日本大学文理学部学生・明電社）

今村峰雄博士（東京大学原子核研究所助教授）

永井尚生博士（日本大学文理学部講師）

吉川英樹（共立薬科大学助手）

以上の各氏であります。

この大きな意義ある共同研究をたたえて財団法人東方研究会はここにこのグループの方々に『東方学術賞』を贈呈致します。

なお学術と関係の深い文化領域における功労者に対し、その業績をたたえるようにした

いという諸方面からの要望がありましたので、本年度は石川響画伯に『東方文化賞』をお贈りすることといたしました。

石川 響画伯は、日展評議員として、また日本の審査員として、美術界で重きをなしておられるかたですが、特にいわゆる Greater India に多くの画題をもとめて日展には河西回廊・ボロブドール・ナーガルジュナコンダ・ヒマーラヤとガンガー・マハーバリプラム・アジャンター・ベナレスについての 250 号の大きな日本画を出品されました。政府の公に後援する日展に大家が出品された意義は大きいと思います。また日蓮聖人の誕生された誕生寺には靈鷲仙の大障壁画を完成され、『ニルヴァーナ・ロードの風景－釈尊最後の旅－』（東京書籍）などの画集があります。画伯の画風は、美しく、親しみをもたせるとともに、宗教的、形而上学的な深みを感じさせるものがあります。鑑賞する人々の大いに共感するところがあります。その独自の功績をたたえ、財団法人東方研究会は、ここに『東方文化賞』を贈呈いたします。以上の次第でありますので、諸方面の御賛同をお願い申し上げます。

尚副賞として加えるために、インド大使館からいろいろ記念品が寄贈されました。また株式会社名著普及会から 4 冊、東京書籍株式会社からは奈良康明博士編著『仏教名言辞典』3 冊と中村元著『聖徳太子』4 冊、株式会社春秋社からは中村元著『チベット人・韓国人の思惟方法』7 冊が贈呈されました。開催につきましてはインド大使館の方々の特別な御協賛にあずかりましたことを深く感謝いたしております。そのお力によりまして微力なわれわれの志願がこのようにみごとに実ったのであります。おかげさまで諸方面より祝電・御祝いなどを頂きまして有難く存じております。

式のあとパーティーは、大使館の御厚意によるのであります。また報道関係はじめ諸方面の方々に御協力頂きましたことを、大いに感謝いたしております。そしてお集まりのみなさまに心から厚く御礼申し上げます。

ただ何分にも、われわれが微力で手不足でありますために、何かと不行き届きの点多々ありましたことは、もことに申し訳なく存じますが、この点は平に御寛恕のほどお願い申し上げます。そして将来にわたって一段と活動を発展させたいと存じておりますので、今後ともよろしく御指導御支援のほど願ひ上げます。

以上、はなはだ蕪辞をつらねましたが、これを以て御挨拶のことばとさせていただきます。